

令和7年度食育推進一校一実践 参考事例 掲載学校

	掲載学校	ページ
1	甲府市立池田小学校	1～3
2	甲斐市立双葉中学校	4～5
3	北杜市立高根西小学校	6～7
4	北杜市立泉中学校	8～14
5	笛吹市立春日居中学校	15～17
6	市川三郷町立市川南小学校	18～19
7	都留市立都留文科大学附属小学校	20～23
8	山中湖町立山中湖中学校	24～26

(様式1 計画書)

令和7年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	甲府市立池田小学校	校 長 名	新田 修
-------	-----------	-------	------

児童生徒の課題

給食の時間を楽しみにしている児童が多く、またよく食べる児童も多い。日によっては、残食が多い学級もあり、苦手な食べ物は食べないという児童もいる。中には残してしまうことに「もったいない」意識が低い児童もいる。

実 践 名	おいしく・楽しく・感謝して、残さず食べよう！
目 標	食への関心を持ち、給食に感謝して残さず食べようとする意欲を持つ。
目標指標と数値	・給食残食量6月（一人当たり月平均）24.7g→19.8g（20%減） ・苦手な食べものが出たときに食べる・一口は食べる児童84%→90% ・食べものを残したとき、もったいないと思う児童95.4%→97%
実施予定日 ・実施予定期間	令和7年7月1日～令和8年2月
対 象	全校児童
指導場面	給食時・学級活動・給食時間・委員会活動・朝、帰りの会等
指 導 者	学級担任・栄養教諭・調理員
具 体 的 な 内 容	
○残菜量を把握し、指導に活用する。 ・毎日の残菜量計測： クラスごとに残菜を計量する。 ・残菜内容の分析： 何が多く残されているのか確認する。 ○給食時間における食に関する指導 ・年間指導計画に基づき、栄養教諭による指導を行う。 ・指導資料を活用し、学級担任による指導を行う。 ○教科による指導 ・家庭科 5年「食べて元気に」 6年「こんだてを工夫して」 ○給食委員会活動 ・給食がより楽しくなるよう放送の工夫（クイズ等）、よびかけを行う。 ○給食調理の工夫 ・よりおいしく食べられるよう、食材の切り方、火の入れ方等工夫する。 ○10月食品ロス削減月間の取組 ○給食週間の取組 ・給食ができるまでの過程を知り、調理員さんの仕事を学ぶ。	
評価方法	・残食調査の比較 ・アンケート調査

(作成者名 福嶋沙織 校務分掌等 栄養教諭)

令和7年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	甲府市立池田小学校	校 長 名	新田 修
実 践 名	おいしく・楽しく・感謝して、残さず食べよう！		
目 標	食への関心を持ち、給食に感謝して残さず食べようとする意欲を持つ。		
目標指標・数値	<ul style="list-style-type: none"> 給食残食量（一人当たり月平均）6月 24.7g→12月 19.8g（20%減） 苦手な食べものが出たときに食べる・一口は食べる児童 84%→90% 食べものを残したとき、もったいないと思う児童 95.4%→97% 		
実践後の数値	<ul style="list-style-type: none"> 給食残食量（一人当たり月平均）6月 24.7g→12月 20.7g（16%減） 苦手な食べものが出たときに食べる・一口は食べる児童 84%→87.9%（3.9%増） 食べものを残したとき、もったいないと思う児童 95.4%→96.5%（1.1%増） 		
実施日 ・実施期間	令和7年7月1日～令和8年2月		
対 象	全校児童		
指導場面	給食時・学級活動・給食時間・委員会活動・朝、帰りの会等		
指 導 者	学級担任・栄養教諭・調理員		
具 体 的 な 内 容			
<p>【指導資料・ポスターを使った指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指導資料を使用した指導…毎月、低・中・高学年ごとに食育指導資料を出し、担任が指導した。 県の食品ロス削減推進マスコットキャラクター「かんしょくま」のポスターをクラスに貼ったり、おたよりに使ったりして、意識を高めるようにした。 <p>【給食をしっかり食べようという意識を高める取り組み】</p> <ul style="list-style-type: none"> 残菜量を意識してもらうため、全校一括でなく、クラスごとに残菜計量をしてもらった。 クラスの残食量をグラフにし、栄養教諭からのコメントと一緒に配布し、活かしてもらった。 「いただきます・ごちそうさましらべ」を実施し、給食喫食時間の確保ができるようにした。 野菜の型抜きをしたり、調理時間の工夫をするなどしたりした。 <p>【給食時の指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日々の給食指導で、給食に興味関心を持たせる内容の指導を行ったり、食品ロスについて知らせたりした。また、感謝の気持ちを育てるため、食事のあいさつについての意味を考えさせた。 			

【給食委員会の取り組み】

- ・ 日常の放送の他、給食クイズを放送し、給食への興味関心を高めた。
- ・ 調理員さんに給食の仕事についてインタビューを行い、その動画を全校に視聴してもらった。

【給食週間の取り組み】

- ・ 給食ができるまでのようすを動画で紹介し、給食に関心を持てるようにした。
- ・ 調理員さんの教室訪問（インフルエンザ蔓延で落ち着き次第実施予定）1年生、6年生の教室に訪問する。実際に給食を作っている方の話を聞き、実際に使っている器具等を見たりすることで給食への関心が高められるようにする。

【市との連携】

- ・ 給食アンケートの実施（事前・事後の2回）
- ・ 月に数回、給食の残食量を確認したり、給食の試食をするなどして助言をして頂いた。
- ・ 2月に食品ロス削減に関するイベントを実施予定。（ヴァンフォーレ甲府の選手を招いての講義など）

成 果

- ・ クラスごとの残食を示したことで、意識を持って取り組むことができた。
- ・ 全校の残食量の多さをクイズで示すと、その量に驚き、「もったいない」とつぶやく児童も多くいた。
- ・ いただきますごちそうさま時間調べを行うことで、食べる時間を確保しようとするクラスも多く見られた。
- ・ 給食室の動画視聴やインタビュー動画の後、児童から「給食を作るの大変そうだった」、「かまがすごい大きくてびっくりした」「給食はどんな風に作られているのかよくわかった」などの声が聞かれ、給食への関心が高まっているようだった。
- ・ 給食指導後はおかわりに並ぶ児童も多く見られていた。
- ・ 調理員さんも意識して、よりおいしく調理しようという気持ちにつながっている。

今後の課題

- ・ 給食をしっかり食べようという意識は高まりつつあるが、感染症の蔓延等ではがんばっても食べきれないことが多々あり、やる気が継続できないという面もあった。
- ・ 全体としては残食が減っているが、中には苦手なものは全く食べないという児童もいるので課題である。
- ・ 指導後は意識が高まるが、気持ちが持続できるよう、継続した指導が必要。

（作成者名 福嶋沙織 校務分掌等 栄養教諭 ）

(様式1 計画書)

令和7年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	甲斐市立双葉中学校	校 長 名	加藤 忍
-------	-----------	-------	------

児童生徒の課題

本校では昨年度も配食技能の向上に取り組み、できるだけ盛りきることを目指すことで残食量が減少した経緯がある。しかしその一方で、現在の給食の様子を見ていると、「魚」や「野菜」など特定の食材を苦手とする生徒が多く、食缶に戻して減らしている状況が見られる。また、汁物は盛りきることができないと、そのまま残食につながってしまう傾向があるように感じる。

バランス良く、十分な食事をとることは、成長期の生徒たちの体と心の発育に多大なる恩恵をもたらすことができると考える。今後の課題改善のために、今年度も新入生を中心に配食指導を継続して行い、全学年に定着させていくとともに、十分な食事時間を確保できるように努めたい。また、給食放送や食育だよりを通して、食の重要性や楽しさを改めて再確認できる機会を積極的に設けていきたい。

実 践 名	「学ぼう食育 配食技能」
目 標	・給食準備をスムーズに行い、食事時間を確保しよう ・上手に等分して盛り付けきろう
目標指標と数値	【活動指標】・給食委員会による給食放送：毎日実施 ・残食量を調べる：毎月実施 【成果指標】・平均残食量を20kg以下にする。 ・アンケート事前事後実施により、達成率を80%以上に上げる。
実施予定日 ・実施予定期間	実態調査アンケート：2学期始め 9月予定 指導後アンケート：2学期終わり 12月中旬予定
対 象	全学年
指導場面	学活・給食時間・給食放送
指 導 者	担任、栄養教諭、家庭科教諭、給食主任、給食委員会担当教師
具 体 的 な 内 容	
1、実態把握アンケートの実施（2学期始め）タブレットにて実施。（学活で実施）〔担任・給食主任〕 2、給食準備の迅速化（15分以内）、食事時間の確保（20分以上）〔給食委員会〕 ・給食委員会による放送、実態調査、呼びかけ。 3、給食放送の工夫〔栄養教諭・給食委員会〕 ・「食品・栄養の知識」「食文化や郷土料理」など、給食の献立に合わせた放送原稿。 ・4校時終了後25分後にする。おかわりも分配し終えて、教師も着席できる時間。 4、食育だよりの掲示・配付〔栄養教諭〕 ・「望ましい食事のとり方」「おすすめレシピ」など、日々の食事での意識や実践につながる内容。 5、食缶内を盛りつけきる配食のめやすの掲示物提示、盛りきることを促す給食放送（食育月間）、給食時の巡回指導〔担任、栄養教諭、家庭科教諭、給食主任、給食委員会〕 6、指導後アンケートの実施（学活で実施）〔担任・給食主任〕	
評価方法	・事後アンケート ・給食残量の推移確認（給食センターに協力をお願い）

(作成者名 永田幸 ・ 浜辺はるか 校務分掌等 給食主任)

令和7年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	甲斐市立双葉中学校	校 長 名	加藤 忍
実 践 名	「学ぼう食育 配食技能」		
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・給食準備をスムーズに行い、食事時間を確保しよう ・上手に等分して盛り付けきろう 		
目標指標・数値	<p>【活動指標】・給食委員会による給食放送：毎日実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・残食量を調べる：毎月実施 <p>【成果指標】・平均残食量を 20 kg以下にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート事前事後実施により、達成率を 80%以上に上げる。 		
実践後の数値	<p>各クラスの給食委員と全校生徒に対してそれぞれアンケートを実施。全校配膳時間の平均が 2 学期初めまでは約 13 分以上かかっていたが、給食委員会で呼びかけたことにより、12 月には約 11 分に短縮された。また、給食委員会の放送が効果的であったと答えた生徒は 99%であった。双葉学校給食センター調べによる残菜量は 1 学期の月平均は 16.75 kgであったが、2 学期の月平均は 17 kgであった。11 月に行った「よく噛んで食べよう」の取り組みで、96%以上の生徒たちがよく噛んで、ゆっくりに食事をするようになったと答えている。</p>		
実施日 ・実施期間	<p>実施日：配食指導は 4 月から随時行った。9 月と 12 月にアンケート実施</p> <p>実施期間：給食放送は毎日、継続中。</p>		
対 象	全校生徒		
指導場面	給食の時間		
指 導 者	栄養教諭・給食委員会担当教諭		
具 体 的 な 内 容			
<p>取り組み内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実態把握アンケートの実施（9 月・12 月）タブレットで実施 2. 給食準備協力の放送を実施。4 校時終了後すぐに配膳を開始できるよう、また、12 分以内に配膳が完了するように呼びかけた。その後、献立の紹介放送を続けた。 3. 食缶内を盛りつけきれよう、放送で呼びかけ、等分の仕方を給食だよりにのせて紹介した。 4. 11 月には、「よく噛んで食べよう」のスライドを作って、噛むことの大切さを全校に伝えた。 5. 双葉学校給食センターに残菜量調べのご協力をいただいた。 			
成 果	<p>4 校時終了後すぐに配膳協力の放送をかけ、協力を呼びかけたことで、配膳時間が大幅に短縮された。よく噛んで食べることの大切さを呼びかけたことで、意識して噛んで食べる生徒が増えた。残菜量平均は 20 kg 以上になることはなく、残食目標は達成された。</p>		
今後の課題	<p>パンや麺類の日は残菜が少なく、米食の日に残菜量が多い傾向にある。好きなものは進んで食べるが、苦手なものは避けてしまう傾向がある。また、歯の矯正をしている生徒が増え、歯間に食べ物が挟まるのを嫌がり、給食を食べたがらない生徒がいる。食事時間は十分に確保されているので、食べ慣れない野菜や味付けでも、盛られた食事はすべて食べられるように指導したい。盛り切り指導を継続するとともに、食品ロスが環境や経済に及ぼす影響なども伝えて、食べ残しがさらに減るように呼びかけていきたい。</p>		

(作成者名 永田 幸 校務分掌等 給食主任)

(様式1 計画書)

令和7年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	北杜市立高根西小学校	校 長 名	小林 茂晴
-------	------------	-------	-------

児童生徒の課題

<p>【給食指導】前年度までは「前向き給食」だったが、今年度から感染症の状態や担任の裁量により、班で食べることも可となった。更に食事のマナーについて気をつけさせていきたい。</p> <p>【食に関する指導】給食は全校的によく食べていて残量はほとんどない。また、苦手なものが出ても一口は食べようと担任の先生をはじめ、給食の時間に各教室に入る先生方が声掛けをしている。しかし、特に1年生は食べる量に個人差がかなりある。メニューによってよく食べる時と、残してしまう時がある。バランスよく食べることを意識させたい。</p>

実 践 名	*食事のマナーや片づけ方に気をつけながら食べよう。 *苦手なものでも一口チャレンジ！バランスよく食べよう。
目 標	・食事のマナーを意識して楽しく食べる。 ・バランスよく食べる大切さを知る。
目標指標と数値	・食事のマナーを意識して食べる児童を95%以上にする。 ・バランスよく食べることの大切さを知らせる活動を2回行う。
実施予定日 ・実施予定期間	令和7年度 2学期 3学期
対 象	全校児童
指導場面	・給食の時間 ・学級活動 ・家庭科、生活科、総合的な学習の時間
指 導 者	学級担任、栄養職員
具 体 的 な 内 容	
<p>○給食の時間の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none">・給食の献立の放送をよく聞いて、北杜市産の食材や旬の食べ物、食材の栄養を知る。・給食センターから配布される「給食だより」を担当が読んで伝える。 <p>○学級活動、家庭科、生活科、総合的な学習の時間での取り組み</p> <ul style="list-style-type: none">・赤、黄、緑の食品を知り、バランスよく食べる大切さを知る。・田んぼや学級農園での栽培活動を通して、米や野菜、大豆について調べ、栄養について知る。 <p>○給食委員会の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none">・毎週月曜日の給食の時間に、「西小・給食スタンダード・食の6か条」の放送をする。・ポスター（食事のマナー、栄養バランス、北杜市産の食材）の掲示・給食クイズ	
評価方法	・アンケートによる評価

(作成者名 板山 峰子 校務分掌等 給食主任)

令和7年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	北杜市立高根西小学校	校 長 名	小林 茂晴
-------	------------	-------	-------

実 践 名	<ul style="list-style-type: none"> * 食事のマナーや片づけ方に気をつけながら食べよう。 * 苦手なものでも一口チャレンジ！バランスよく食べよう。
目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事のマナーを意識して楽しく食べる。 ・ バランスよく食べる大切さを知る。
目標指標・数値	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事のマナーを意識して食べるような活動を行う。 ・ 特に課題になっている「食べながらおしゃべりをしない」を90%以上にする。 ・ 自分たちが食べている食材について興味を持てるような活動を行う。
実践後の数値	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食事のマナーを意識して楽しく食べるについては、給食委員会が毎週月曜日に「西小・給食スタンダード・食の6か条」の放送をして意識させた。 ・ 食事のマナーについてのアンケート（肘をつかない。箸やスプーンを正しく持つ。口に物が入っているときにはしゃべらない。おわんやお皿を持って食べる。「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつ、全部食べきる）はどの学年も80%以上「いつもできている」「だいたいできる」だった。「口に物が入っているときにはしゃべらない」では2クラスが「たまにしゃべる」が半数だったので指導を続けていきたい。 ・ 毎週金曜日の給食クイズや、給食センターからの「食育だより」の「北杜市産の食材」の紹介を行った。
実施日・実施期間	令和7年2学期～令和8年3学期
対 象	全校児童
指導場面	給食の時間 学級活動 委員会活動
指 導 者	学級担任
具 体 的 な 内 容	
<p>○給食の時間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各学級の給食の時間に、献立の放送をよく聞いたり、「給食だより」を読み聞かせたりして、旬の食べ物、北杜市産の食品、バランス良く食べることの大切さについて知らせた。 <p>○給食委員会の取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今年度も継続して、西小食育キャラクター「たべぼん」や「西小・給食スタンダード・食の6か条」を作成し、ポスターを各教室や廊下に掲示したり、毎週月曜日の給食時に放送で呼びかけたりして、マナーを意識させた。 ・ 毎週金曜日の給食時に「給食クイズ」を行い、食への関心を持てるように取り組んだ。 ・ 「給食マナー」「食品の栄養バランス」「北杜市産の食材の紹介」のポスターを作って、児童玄関前や廊下に掲示した。 <p>○学級活動、家庭科、生活科での取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校農園での野菜の栽培、大豆の収穫、田んぼでの米作りを通して、作物の栄養について調べた。 	
成 果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「食の6か条」の放送やポスターの掲示で、児童がマナーを意識することができた。 ・ 「給食クイズ」やポスターの掲示、給食センターからの給食便りの一口メモの放送を通して、食品の栄養や旬の食べ物、地元で作られた食品について知ることができた。
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後も引き続き、マナーを意識して楽しく給食を食べたり、感謝の気持ちを持ってあいさつをしたりしていきたい。

令和7年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	北杜市立 泉中学校	校 長 名	有賀 多恵
-------	-----------	-------	-------

児童生徒の課題

本校の生徒は、山梨県に住んでいながら、地元の郷土料理や特産物についての理解が浅く、特に「ほうとう」以外の郷土料理については認識が乏しい。事前に実施したアンケートでは、「山梨県の郷土料理」として「ほうとう」以外を挙げた生徒は8.6%にとどまり、多くの生徒が「ほうとう＝山梨の郷土料理」といった限定的な認識にとどまっていることが明らかとなった。

また、家庭で郷土料理を食べる機会が少ないことや、食に関する学習が体験的な理解につながっていないことも課題である。郷土料理の背景にある風土や文化、食材の特性などに関心をもつ機会が不足しており、「地域の食」に対する愛着や誇りを育む土台が十分に形成されていない現状がある。

実 践 名	食による地域の魅力を再発見 ～ほうとうだけじゃないぞ！山梨の郷土料理～
目 標	山梨県の特産・郷土食等を、給食を通して生徒に伝承する
目標指標と数値	事前アンケート項目 「山梨県の郷土料理は？」ほうとう以外の回答率8.6%→50%以上にする
実施予定日 ・実施予定期間	令和7年11月～12月中旬
対 象	本校の生徒・教員
指導場面	給食の時間を中心に
指 導 者	給食主任（吉岡優子）・栄養士（八巻優美）
具 体 的 な 内 容	
<p>本校が自校給食であるという特性を最大限に活かし、栄養士や調理員と連携しながら、本校独自の取り組みとして山梨の郷土料理や特産物を取り入れた給食を実施する。具体的には、山梨県教育委員会のホームページに掲載されている郷土料理レシピ等を参考にしながら、実際に給食として提供することで、生徒が「食べる体験」を通して地域の食文化に親しむことを目指す。11月から12月中旬にかけて、「食による地域の魅力を再発見～ほうとうだけじゃないぞ！山梨の郷土料理～」をテーマにした強化週間を設け、給食と連動した多角的な啓発活動を展開する。期間中は、郷土料理に関する給食メニューの紹介を校内に掲示したり、給食だよりを通じて家庭にも情報発信を行ったりする。また、給食委員会や生徒会本部でも、生徒主体で山梨の郷土料理や特産物を紹介・広報する活動（校内放送、ポスター掲示、クイズ形式の紹介等）を行い、食と地域への関心を高める。</p>	
評価方法	<p>事前・事後アンケートの比較 「山梨県の郷土料理といえば？」の設問を通して、取組前後で「ほうとう」以外の郷土料理を挙げた生徒の割合を比較する。</p> <p>給食メニューの反応と喫食状況の把握 強化週間中の郷土料理メニューについて、残食の様子や生徒の感想を給食委員を通して確認する。</p>

令和7年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	北杜市立 泉中学校	校 長 名	有賀 多恵
-------	-----------	-------	-------

実 践 名	食による地域の魅力を再発見 ～ほうとうだけじゃないぞ！山梨の郷土料理～
目 標	山梨県の特産・郷土食等を、給食を通して生徒に伝承する
目標指標・数値	事前アンケート項目 「山梨県の郷土料理は？」ほうとう以外の回答率 8.6%→50%以上にする
実践後の数値	ほうとう以外の回答率 100%
実施日 ・実施期間	令和7年11月～12月中旬
対 象	本校の生徒・教員
指導場面	給食の時間を中心に
指 導 者	給食主任（吉岡優子）・栄養士（八巻優美）

具 体 的 な 内 容

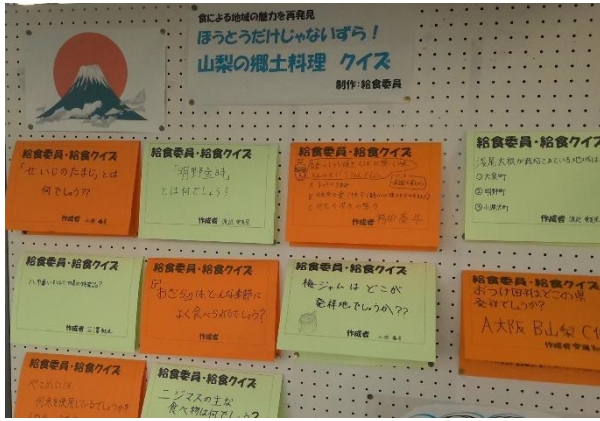
本校が自校給食であるという特性を生かし、栄養士・調理員・給食主任が連携しながら、山梨県の郷土料理や特産物を取り入れた給食を計画的に実施した。献立作成にあたっては、山梨県教育委員会ホームページ等に掲載されている郷土料理レシピを参考にし、「ほうとう」だけに偏らないよう配慮した。給食には、浅尾大根、八幡いも、明野金時、にじます、梅ジャムなどの県産食材を取り入れるとともに、せいじのたまじ、おざら、やこめ、おつけ団子、青春のトマト焼きそばといった山梨の郷土料理を提供し、地域の食文化の多様性が伝わるようにした。

11月から12月中旬にかけては郷土料理強化週間を設定し、給食と連動した取組を行った。給食委員会では、生徒が山梨県の郷土料理や特産物について調べ、その内容をもとに掲示や給食時間の放送を行った。掲示物は、答えが下に隠れている、めくる形式のクイズとし、生徒が楽しみながら郷土料理に触れられるよう工夫した。また、郷土料理や特産物を紹介するポスターは、生徒がCanvaを活用して作成し、給食室入り口に掲示した。給食時間の放送では、給食委員が料理名や簡単な紹介を行い、生徒が調べた内容やメニューを全校に発信する機会とした。

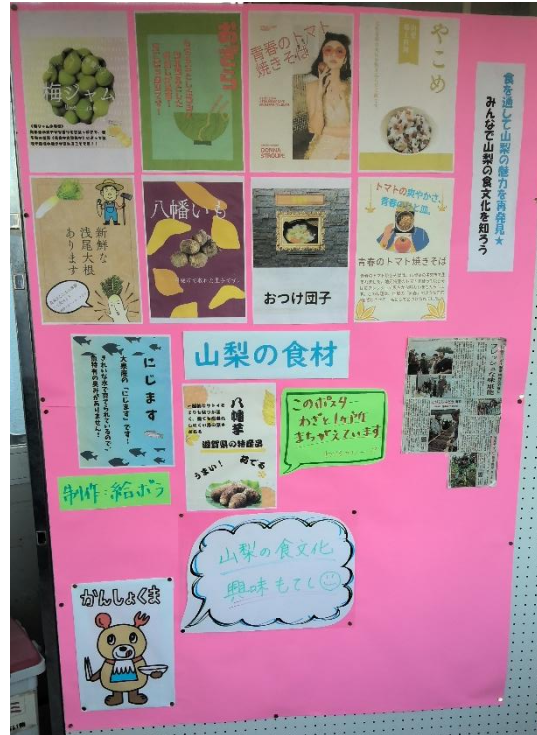
これらの活動により、給食委員会の取組を、単なる作業的な委員会活動にとどめることなく、委員会の生徒自身が郷土料理について学び、その内容を発信する場として位置付けることができたと考えている。

また、1学期から、調理室の役割や様子、給食準備中の様子を紹介する掲示を行い、給食を作ってくれる人・仕事、食の安全などにも関心をもつことを大切にしてきた。さらに、季節の食材や食文化の紹介も行き、食への親しみを土台として2学期の本実践につなげたことで、生徒が給食を通して楽しみながら、地域の食文化に目を向けるきっかけとすることができたと感じている。

食による地域の魅力を再発見～ほうとうだけじゃないぞら！山梨の郷土料理～



生徒作成：山梨郷土料理クイズ



生徒作成：山梨の食材紹介ポスター



山梨の食材紹介



給食委員による山梨の食材の紹介



山梨の郷土料理給食



ランチルーム前の展示



四季×食



図書室の本×食

ランチルームの様子



校長先生も一緒に準備★



給食委員は消毒も担当



生徒作成：準備の様子を紹介



国語科：2 学年作成
理想の給食プレゼン
*実際に給食のメニュー
で再現されました!!



生徒作成：調理室の紹介

もみじ給食（生徒会本部とコラボ）



給食をお弁当箱に！！
お弁当箱の蓋にシールが貼って
あったら「あたり」です。
「あたり」の生徒は・・・。

校庭で食べます。
生徒会本部の企画で、シャッフル給食（縦割り給食）です。
学年を超えて全校で食べました。



図書委員会とコラボ



本に出てくるメニューの総選挙★
上位4位が実際に給食になりました。



<p>成 果</p>	<p>事後アンケートでは、「山梨県の郷土料理といえば何ですか」「ほうとう以外で山梨県の郷土料理を書けるだけ書いてください」の二つの設問を設定し、調査を行った。その結果、いずれの設問においても「ほうとう」のみを挙げた生徒は一人もおらず、全ての生徒が「ほうとう」以外の山梨県の郷土料理を一つ以上挙げる事ができた。事前アンケートでは、「ほうとう」以外の郷土料理を挙げる事ができた生徒は 8.6%にとどまっていたことから、本実践を通して郷土料理に対する認知が大幅に向上したことが明らかとなった。</p> <p>回答内容には、「吉田のうどん」「みみ」「おざら」「おつけだんご」「やこめ」「せいだのたまじ」「鳥もつ煮」などが見られ、給食で提供・紹介した郷土料理名が多く挙げられていた。このことから、給食を通じた体験的な学びが、生徒の理解や知識の定着につながったと考えられる。</p> <p>また、「給食で食べた郷土料理で心に残っているもの」という設問では、「ニジマスの唐揚げ」が圧倒的に多く挙げられた。特に、一人一匹ずつ丸ごと提供された点が生徒の印象に残っており、頭から尾まで全て食べることができるよう工夫された調理方法に対して、「全部食べられてすごい」「一人一匹ずつ用意してくれて驚いた」などの感想があった。このことから、県産食材を生かした調理の工夫や提供方法そのものが、生徒の驚きや感動を生み、給食を通じた体験的な学びとして深く記憶に残ったと考えられる。</p> <p>さらに、本実践にあたっては年間計画を作成し、それに基づいて給食・掲示・委員会活動を計画的に連動させながら発信を行った。これにより、単発的な取組にとどまらず、継続的かつ見通しをもった食育活動を展開することができた点も成果として挙げられる。</p> <p>委員会活動の振り返りにおいて、給食委員からは「来年度も食について発信していきたい」「来年度は他の委員会ともコラボレーションして取り組んでみたい」といった意見や多様なアイデアが出された。</p> <p>以上の結果から、給食・掲示・委員会活動を相互に連動させた取組は、生徒の郷土料理に対する理解を深めるとともに、地域の食文化への関心を高め、計画的かつ発展的な委員会活動へとつながる有効な実践であったと考えられる。</p>
<p>今後の課題</p>	<p>「給食は好きですか」という問いに対し、「いいえ」と回答した生徒が全校で 1 名いたことから、今後は個々の食に対する感じ方や家庭環境、食経験の違いなどにも配慮した、より丁寧な支援が求められる。</p> <p>また、本校では給食委員がボランティア委員会の役割も兼ねているという実情があり、委員会活動に十分な時間を確保することが難しい。そのため、限られた時間の中で両方の活動を無理なく進めていくための活動内容の精選や、役割分担の在り方について、引き続き工夫が必要である。</p> <p>さらに、郷土料理の名称や種類についての認知は広がったものの、料理が生まれた背景にある歴史や風土、地域の食文化の意味まで踏み込んで理解を深める点については、十分とは言えない。</p> <p>今後は、短時間でも学びにつながる内容や活動の工夫を行うとともに、他の教員や委員会、教科、行事等との連携を図り、学びの深まりと持続可能な委員会活動の実現を目指していく必要があると考える。</p>

(作成者名 吉岡 優子 校務分掌等 給食主任)

(様式1 計画書)

令和7年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学校名	笛吹市立 春日居中学校	校長名	清水 健
-----	-------------	-----	------

児童生徒の課題

<ul style="list-style-type: none">・ 全校生徒の肥満区分では、男子の軽度肥満が5.47%、中度肥満が4.69%、高度肥満が3.13%、女子では軽度肥満が4.49%、中度肥満6.74%、高度肥満が1.12%いる。肥満傾向の生徒のうち早食いの傾向がある生徒が多い。早食いの生徒に対して声掛け等の働きかけをしているが、改善されない傾向にある。(給食を食べる時間と量に個人差がある。)・ 歯科検診中、口が開けられない生徒が多い。また、矯正中の生徒が全校で16名程度いる。

実践名	「かむ」ということ ～あなたはしっかり噛んで食べていますか～
目標	自分の食事習慣を振り返り、「かむ」ということを意識して食べる習慣を身につける。
目標指標と数値	<ul style="list-style-type: none">・ 学習後に噛んで食べることの意義を理解できた生徒 6割以上・ 学習後に噛むことへの意識が高まり、学習前より噛んで食べるようになった生徒 6割以上
実施予定日 ・実施予定期間	令和6年6月～令和7年2月
対象	全学年
指導場面	<ul style="list-style-type: none">・ 学校行事・ 朝学習・ 学活・ 給食時
指導者	栄養教諭、学級担任、養護教諭、保健食育委員会担当教諭
具 体 的 な 内 容	
<p>① 栄養教諭からの指導</p> <p>(ア) 給食の時間に「かむことの効果」の指導</p> <p>(イ) アンケートの実施</p> <p>② 保健給食委員会生徒の活動</p> <p>(ア) 「今日の給食について」を全校放送で流す</p> <p>(イ) 「意識して噛んで食べよう週間」の実施</p> <p>(ウ) 「噛むことの大切さ」の話</p> <p>(エ) アンケートの実施</p>	
評価方法	<ul style="list-style-type: none">・ 指導前後の給食時に食べ方を観察し、生徒の様子を見る。・ 指導後に行うアンケートから、生徒の意識の変化を見る。

(作成者名 岡村 操 校務分掌等 給食主任)

令和7年度 食育推進一校一実践 実施報告書

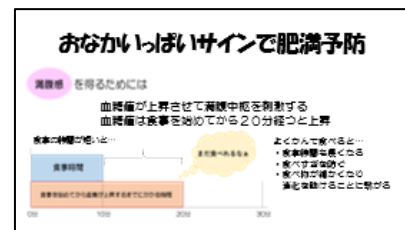
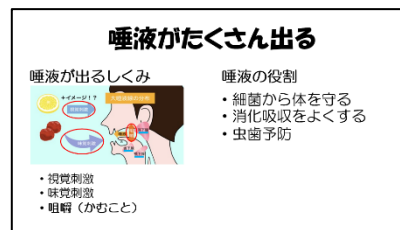
学 校 名	笛吹市立 春日居中学校	校 長 名	清水 健
-------	-------------	-------	------

実 践 名	「かむ」ということ ～あなたはしっかり噛んで食べていますか～
目 標	自分の食事習慣を振り返り、「かむ」ということを意識して食べる習慣を身につける。
目標指標・数値	・ 学習後に噛んで食べることの意義を理解できた生徒 6割以上 ・ 学習後に噛むことへの意識が高まり、学習前より噛んで食べるようになった生徒 6割以上
実践後の数値	・ 学習後に噛んで食べることの意義を理解できた生徒 80% ・ 学習後に噛むことへの意識が高まり、学習前より噛んで食べるようになった生徒 87%
実施日 ・ 実施期間	令和6年6月～令和7年2月
対 象	全学年
指導場面	・ 学校行事 ・ 学活 ・ 朝学習 ・ 給食時
指 導 者	栄養教諭、学級担任、養護教諭、保健食育委員会担当教諭

具 体 的 な 内 容

③ 栄養教諭からの指導

(ア) 給食の時間に「かむことの効果」の指導



栄養教諭がパワーポイントの資料を使って指導をした。保健食育委員会の3年生を前に話をしてもらった。その様子を全クラスに配信し、話を聞きながら給食を食べた。給食後生徒たちの様子を聞いたところ、「よく聞いていた」「早食いの生徒が、いつもより少しゆっくり食べていた」などの話がでた。よく噛むことを少し意識してくれたようだ。



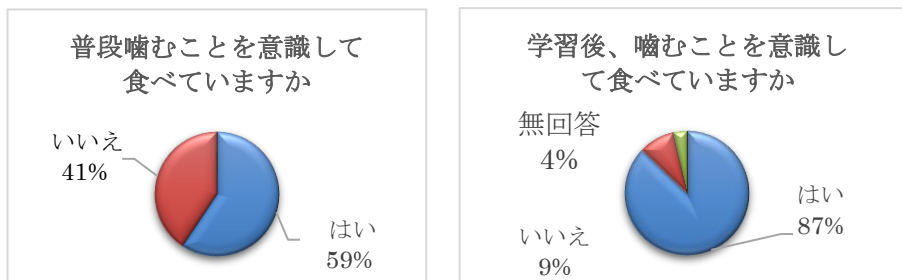
保健食育委員会の生徒の様子



教室の様子

(イ) アンケートの実施

栄養教諭の指導の後、アンケートを取った。予想とは反して、普段噛むことを意識して食べている生徒が多かった。学習後はほとんどの生徒が意識して噛むようになった。



また、印象に残った内容や感想も書いてもらったところ、「噛む人と噛まない人で健康状態が変わることが分かった。」「噛むとおなかがいっぱいになる話が印象的だった。」「よく噛むことによっておこるメリットについて考えることができた。これから意識していきたいです。」などと書かれていた。噛むことの大切さを理解できたように感じた。

④ 保健給食委員会生徒の活動

(ア) 「今日の給食について」を全校放送で流す

- ・実施することができなかった。

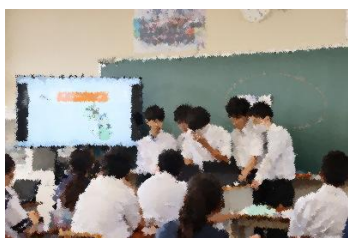
(イ) 「意識して噛んで食べよう週間」の実施

- ・カムカム献立に合わせて「噛むことの大切さ」の話を実施した。

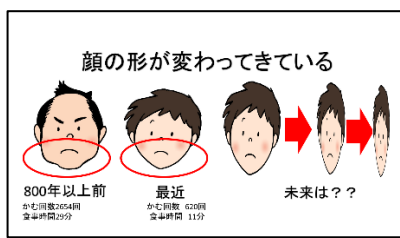
(ウ) 「噛むことの大切さ」の話

- ・保健食育委員会による噛むことの大切さの伝達。

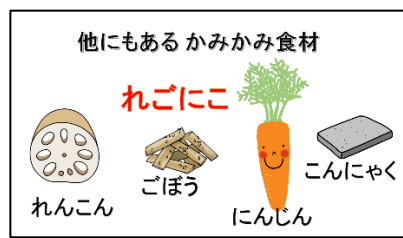
朝学習の時間を使い、保健食育委員会の生徒からクイズ形式でたくさん噛む食材を紹介した。また、どうしてよく噛んで食べるのが大切なのか伝えた。生徒たちは熱心に耳を傾けていた。



発表している生徒の様子



資料の一部



(エ) アンケートの実施

- ・生徒の活動の反省としてのアンケートを実施することはできなかった。保健食育委員会の反省の中で、「わかりやすく発表することができた。」「話をした後、噛むことを意識しながら食べている人が増えた。」などの意見が出された。

<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段、授業しない先生が指導を行うことで、真剣に聞いていた生徒が多かった。自分の食べ方を振り返る機会となった。 ・ 生徒たちが噛むことの効果について理解し、意識するようになった。
<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食べる時間を確保できるよう、各クラスで工夫してもらう。 ・ 計画していたができなかった活動があったので、委員会活動の中に計画的に入れていく。 ・ その時は意識できても、時間がたつと忘れてしまう生徒が多いので、定期的に話をする機会を設けたい。

(作成者名 岡村 操 校務分掌等 給食主任)

(様式1 計画書)

令和7年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	市川三郷町立市川南小学校	校 長 名	深澤 純子
-------	--------------	-------	-------

児童生徒の課題

本校は全校児童 38 名の小規模校である。給食指導では、量を調節して配膳することで、残さず食べるようにすることや苦手なものでも少しずつ食べられるようにすることについて、働きかけている。児童会活動の体育放送委員会活動においては、献立と三色別に分けた食材及びひとくちメモを毎日発表することで、バランス良く食べることの大切さを日々呼びかけている。

朝食の摂取率については、「毎日食べている」と答えた児童が 84.2%(32 人)というが、バランスがとれているかという点、「パン」だけとか「バナナ」だけとか課題がある。また、朝食をしっかりと食べるためには、規則正しい生活リズムが大切になるが、早寝・早起きができていない児童がいる。そして、6時30分までに起床する児童の割合は 42.1%(16 人)にとどまり、慌ただしい朝を過ごしている児童が多い。

実 践 名	「早寝・早起き・朝ごはん」から健康な毎日を送ろう！
目 標	・朝食をしっかりと食べてくるために、早寝・早起きができる。 ・朝食の役割を知ること、毎日朝食を食べてくることできる。
目標指標と数値	・朝食を毎日食べてくる割合を、90%以上にする。 ・6時30分までに起床する割合を、50%以上にする。
実施予定日 ・実施予定期間	・7月14日 6年家庭科 授業実践「朝食から健康な1日の生活を」 ・2学期～3学期
対 象	1年～6年
指導場面	学級指導、給食の時間、家庭科
指 導 者	学級担任、栄養教諭、家庭科教科担任、養護教諭
具 体 的 な 内 容	
・実態把握のため、生活実態調査を年に2回行い、情報収集及び分析を行う。結果については、家庭にも情報発信する。 ・学級指導等の時間を利用して、朝食を食べてくると脳や体が目覚めるということを知らせ、朝食の重要性について知らせる。 ・朝の学びタイムで「早寝・早起き・朝ごはんができていないか」を毎日記録することで、規則正しい生活（早寝・早起き）ができていないか振り返りを行い、朝食を食べてくる時間を確保することを目指す。 ・給食の時間に「朝食の大切さ」「朝食の役割」等について、栄養教諭から専門的な指導をしていただくことで、意識の変容を図る。 ・峡南教協東部支会食教育研究会で取り組んでいる内容を、本校の活動に生かし、6学年家庭科「朝食から健康な1日の生活を」の題材名で教科担任が授業実践を行う。 ・お手軽朝ごはんレシピを家庭に配付し、親子でバランスのよい朝食を作るきっかけをつくる。	
評価方法	・1学期と2学期に実施する生活実態調査の数値の変容からを見取る。 ・指導前後のアンケート結果やワークシートの記述から、児童の変容を見取る。

(作成者名 北村 照美 校務分掌等 給食主任)

令和7年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	市川三郷町立市川南小学校	校 長 名	深澤 純子
-------	--------------	-------	-------

実 践 名	「早寝・早起き・朝ごはん」から健康な毎日を送ろう！
目 標	<ul style="list-style-type: none"> 朝食をしっかりと食べてくるために、早寝・早起きができる。 朝食の役割を知ること、毎日朝食を食べてくることができる。
目標指標・数値	<ul style="list-style-type: none"> 朝食を毎日食べてくる割合を、90%以上にする。 6時30分までに起床する割合を、50%以上にする。
実践後の数値	<ul style="list-style-type: none"> 朝食を毎日食べてくる人の割合 1学期 84.6%→2学期 81.6% 割合的には改善できなかったが、2学期は「食べない」と答えた児童は、一人もいなかった。また「時々食べない」と答えていた児童も、1学期よりは「食べてくる」回数が増えてきた。 6時30分までに起床する人の割合 1学期 42.1%→2学期 39.5% 調査をした時期が5月と12月の寒い時期だったため、割合を増やすことはできなかった。
実施日 ・実施期間	<ul style="list-style-type: none"> 7月14日 6年家庭科 授業実践「朝食から健康な1日の生活を」 2学期～3学期
対 象	1年～6年
指導場面	学級指導、給食の時間、家庭科
指 導 者	学級担任、栄養教諭、家庭科教科担任、養護教諭
具 体 的 な 内 容	
<ul style="list-style-type: none"> 実態把握のため生活実態調査を年に2回(5月・12月)行い、情報収集及び分析を行った。結果については家庭にも情報発信した。1学期は学年懇談、そして2学期は個別懇談の折りに、担任より家庭の様子を聞きながら、「保護者向け～学校と家庭で育む子どもの生活習慣」の冊子と一緒にアンケートの結果を返却し、個別に指導を行った。 朝の学びタイムで「早寝・早起き・朝ごはんができているか」を毎日記録することで、規則正しい生活ができているか振り返りを行い、「早寝・早起き・朝ごはん」ができていない児童には、個々にどこに問題があるか原因を探りながら、声かけを行った。 6学年家庭科「朝食から健康な1日の生活を」の題材名で教科担任が授業実践を行い「朝食の役割」について考え、自分の朝食のバランスについて見直しをすることで「夏休み朝食一品追加大作戦」に繋げることができた 保健委員会の活動として、児童が「早ね・早おき・朝ごはん」の大切さを、知るだけでなく「自分のこと」として捉え、明日からの行動につなげられるよう、「早寝博士」「早起き博士」「朝ごはん博士」の3人の博士役を登場させたり、クイズを取り入れたりして、児童の興味・関心を高めながら、楽しく学べる保健集会を行った。 給食の時間に「朝食の大切さ」について、栄養教諭から専門的な指導をしていただいた。 	
成 果	<ul style="list-style-type: none"> 6年の家庭科の授業を通して、児童が自分で朝食の計画を立てることで、朝食の役割や食生活を振り返ることが出来た。 保健集会後の感想から「帰ったらやるべきことを早く終わらせて、早く寝るようにしたい」「朝ごはんは必ず食べてくる」といった声が聞かれ、生活習慣改善への意識づけになった。 「朝食を食べてこない」家庭へ個別指導を行ったことにより、保護者が「朝食の大切さ」を再確認する機会となり、意識変化に繋がった
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> 今後は、全員が朝食を毎日食べてくる習慣をつけられるよう家庭との連携を図りながら、継続的な声かけや保健だより等を通して、生活習慣(早寝・早起き・朝ごはん)の定着を支援していく必要がある。 一時的に改善しても、家庭背景が多様で継続が難しい。

令和7年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	都留市立都留文科大学附属小学校	校 長 名	藤本 裕子
-------	-----------------	-------	-------

児童生徒の課題

本校は児童25名の小規模校であり、全児童が毎日の給食の時間を楽しみにしている。しかし、食物アレルギーや少食、偏食といった課題を抱える児童がいる一方、初めて見る料理や食材に箸が進まない、食べる前に苦手な物を極端に減らす児童もおり、食を大切にしている心の希薄さを感じることがある。4月に実施した保健給食委員会（児童4名）の話し合いでは、好き嫌いを課題として考える児童が多く「1人1人の好きな食べ物を増やす活動をする」という意見でまとまった。

実 践 名	食べてたおせ！ フードモンスター！
目 標	食への興味・関心、食べ物を大切にする意識を1人1人が持つことができる。 今後の自分自身に必要な食に関する目標を1人1人が立てることができる。
目標指標と数値	【活動目標】 ・保健給食委員会の児童が主体となり、栄養教諭と連携した取組を1回実施 【成果目標】 ・実施前後にアンケートを実施。取組を通して、苦手な物を頑張って食べようとする姿がみられる児童や、食への興味・関心がある児童の割合を増やす。 ・実践前後の様子を振り返り、自分自身の課題や目標を全児童が立てる。
実施予定日 ・実施予定期間	2学期中の1週間程（11月を予定）
対 象	全校児童 1～6年生（計25名）
指導場面	委員会活動、特別活動、給食時間
指 導 者	給食主任（養護教諭）、学校栄養教諭、学級担任
具 体 的 な 内 容	
【実施内容：給食週間中は、栄養教諭・担任等・委員会児童が働きかけを行う】 好き嫌いや、箸がなかなか進まない理由となる料理や食材の特徴をモンスター化する。チャレンジ目標を設定し、食事をしながらポイントを獲得して、モンスターを倒していく。〔個人目標〕 1人1人のポイントをシールに換算し、全校で1枚のシールアートを完成させる。〔集団目標〕 個人目標と集団目標を互いに連動させて相乗効果を生むことで、より大きな成果とさせたい。 【事前準備：委員会の時間を使い、委員会児童が主体となって取り組む】 ① 好き嫌いをテーマに、普段の給食の時間を振り返り、課題となる料理や食材の特徴を考える。 ② ①の意見をモンスター化して、CanvaのAIイラスト自動生成を活用しモンスターをつくる。 ③ モンスターを倒すためのチャレンジ目標やポイント、チェックカード、シールアートを作成。 【事後指導：栄養教諭と委員会児童が連携した指導をする場を設定する。】 活動を振り返り、全児童の頑張りを認めながら、食事を大切に食べることの大切さを伝える。自分の食生活をよりよくするための望ましい行動を増やすことに繋がる指導をおこなう。	
評価方法	事前事後アンケート、チェックカードからの見取り

令和7年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	都留市立都留文科大学附属小学校	校 長 名	藤本 裕子
実 践 名	もぐもぐクエスト モンスターをたおせ!! 2025 ※実践名が計画書と異なりますが、委員会の児童が決めたものとなります。		
目 標	食への興味・関心、食べ物を大切にする意識を1人1人が持つことができる。 今後の自分自身に必要な食に関する目標を1人1人が立てることができる。		
目標指標・数値	【活動目標】 ・保健給食委員会の児童が主体となり、栄養教諭と連携した取組を1回実施 【成果目標】 ・実践前後にアンケートを実施。取組を通して、苦手な物を頑張って食べようとする姿がみられる児童や、食への興味・関心がある児童の割合を増やす。 ・実践前後の様子を振り返り、自分自身の課題や目標を全児童が立てる。		
実践後の数値	【活動目標】 達成 【成果目標】 達成 【実施前のアンケート結果】 ※総回答数に対する割合 Q.苦手なものはどうしていますか？（複数回答可） がんばって食べきる …38% 食べきれないけど、一口でも食べる …35% 頑張るけど、一口も食べられない …9% 頑張りがたくないし、食べたくない …3% 苦手なものはない …15% <u>88%の児童が、苦手な物を頑張って食べている、または苦手なものがない。</u> 【実施後のアンケート結果】 Q.苦手なものも頑張って食べましたか？ はい …80% ふつう …8%（少し食べた） いいえ …0% 苦手なものが出なかった …12% <u>100%の児童が、苦手な物を頑張って食べた、または苦手な物がなかった。</u> Q.取組は楽しかったですか？ はい …92% ふつう …8% いいえ …0% Q.給食を残さないように頑張りましたか？ はい …88% ふつう …12%（できるだけ） いいえ …0% Q.給食をおいしく（味わって）食べることができましたか？ はい …88% ふつう …12% いいえ …0% <u>100%の児童が、楽しみながら食に関心を持ち大切に食べることができた。</u> ・自身の課題を考え、自分の給食目標を立てることができた児童。…100%		
実施日・実施期間	令和7年11月4日～11月10日（5日間）		
対 象	全校児童 1～6年生（計25名）		
指導場面	委員会活動、特別活動、給食時間		
指 導 者	給食主任（養護教諭）、学校栄養教諭、学級担任		

具体的な内容

①好き嫌いや、箸がなかなか進まない理由となる料理や食材の特徴をモンスター化する。

★児童の実態（アンケート結果「苦手なものの理由は何ですか？」）※総回答数に対する割合
 味 …26% 食感 …26% におい …21% 食べたことがない …13% 見た目 …8%
 その他 …5%（組み合わせで嫌な時がある，理由はわからないけど嫌）

★委員会の児童が栄養教諭と一緒に考え，AIイラストで作成したモンスター

タベタコトナイモン（食わず嫌い），ミタメヤーネ（見た目が嫌），ピリカラヤーネ（辛味が嫌）
 カワヤーネ（肉の皮の食感が嫌），ホネヤーネ（骨が嫌），アンバランスだいまおう（好物しか嫌）



タベタコトナイモン

タベタコトナイー！！



ミタメヤーネ

たべてみ！



ホネヤーネ

ほねやだー！



カワヤーネ

ブヨブヨこうげき！



ピリカラヤーネ

からそうー！



アンバランスだいまおう

えいようをとらないぞー！

②給食を食べて“もぐもぐポイント”を獲得して，モンスターを倒す。【個人目標】

ルール：◇よそった分だけ食べきる 《4ポイント》

◇食べきれなかったけど，全部のメニューを1くちずつ食べた 《2ポイント》

～【ボーナスポイント】～

◇苦手なものを少しでも食べた 《1ポイント》

◇全部食べきったあとに，おかわりをした 《1ポイント》

※最多で6ポイント，少なくとも2ポイントGET

★チェックカード

11/4～10

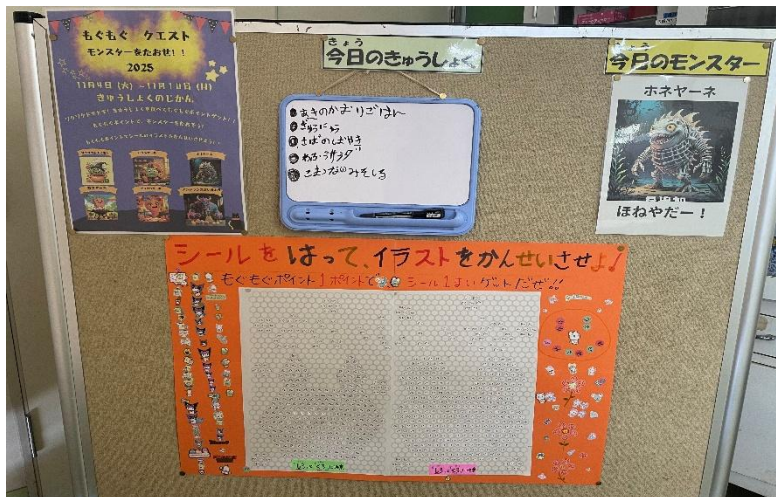
きゅうしょく

給食

なまえ

11/4 火	11/5 水	11/6 木	11/7 金	11/10 月
<ul style="list-style-type: none"> • あきのかおりごはん • ぎゅうにゅう • さばのしおやき • わふうサラダ • こまつなのみそしる 	<ul style="list-style-type: none"> • チーズパン • ぎゅうにゅう • とりにくのマッシュポテトやき • カラフルサラダ • マカロニサラダ 	<ul style="list-style-type: none"> • むぎごはん • ぎゅうにゅう • ヤンニョムチキン • さんしょくナムル • はるさめスープ 	<ul style="list-style-type: none"> • ライむぎパン • ぎゅうにゅう • いかのこうそうやき • かんびょうサラダ • ビーンズトマトスープ • ぶどうゼリー 	<ul style="list-style-type: none"> • むぎごはん • ぎゅうにゅう • はるまき • ホイコーロー • もやしのちゅうかスープ • りんご
<p>もぐもぐポイント</p> <p>● + ●</p> <p>= ● ポイント</p>	<p>もぐもぐポイント</p> <p>● + ●</p> <p>= ● ポイント</p>	<p>もぐもぐポイント</p> <p>● + ●</p> <p>= ● ポイント</p>	<p>もぐもぐポイント</p> <p>2ばい</p> <p>● + ● × 2</p> <p>= ● ポイント</p>	<p>もぐもぐポイント</p> <p>2ばい</p> <p>● + ● × 2</p> <p>= ● ポイント</p>
<p>2ポイントでたおせるよ！</p> <p>ホネヤーネ</p>	<p>3ポイントでたおせるよ！</p> <p>カワヤーネ</p>	<p>4ポイントでたおせるよ！</p> <p>ピリカラヤーネ</p>	<p>6ポイントで2体をたおせ！</p> <p>タベタコトナイモン</p> <p>ミタメヤーネ</p>	<p>8ポイントでだいまおうをたおそう！</p> <p>アンバランスだいまおう</p>

③ “もぐもぐポイント” 1ポイントにつきシール1枚を獲得して、全校児童でシールアートを完成させる。【集団目標】 ※児童玄関に掲示した。



委員会児童の役割

- ・活動のポスターを作成。
 - ・取組内容とルールの説明を各クラスへ行き実施。
 - ・給食のメニューを掲示板のホワイトボードに記入。
 - ・給食時間に放送を入れる。
- ① 今日のモンスター
 - ② 今日の注目メニュー
 - ③ 応援メッセージ

(1日目) なにができるかな? (3日目) 少しわかってきた! (5日目:最終日) 完成!!



【取組後に児童が立てた、自分の給食目標 (一部抜粋)】

- ・苦手なものもチャレンジする。 ・全部のメニューを一口は食べる。 ・好き嫌いをへらす。
- ・できるだけ残さないで食べきる。 ・おかわりをする。 ・給食を減らさないようにする。
- ・食べ物を大切に作る。 ・味わって食べる。 ・つくってくれた人に、感謝して食べる。

成 果	<p>本校は、偏食や食が細い児童が多い。そのような児童も楽しく給食を食べることができ、個々が自分の好き嫌いに向き合い自分なりの目標を持ちながら取り組むことができた。また、全校で協力してシールアートを完成させることで、より個々や全体の意識が高まった。取組を通して、“苦手なもの” “苦手な理由” “感じ方” について、言葉や表情で伝えてくれた児童や、いつも完食するが実は苦手なものを頑張って食べていた児童を知ることができ、児童理解にも繋がった。委員会の児童は、“素敵さや頑張りを認め合う環境をつくりたい” という考えのもと主体的に活動することができ、“みんなで楽しく頑張る” ことができた給食週間となった。</p>
今後の課題	<p>食べられない理由は様々あり、感じ方は年齢や人それぞれ多様である。児童がこれからも、食への興味・関心、食べ物について言葉にして伝えたり、他の人の感じ方に触れたり、栄養の大切さについて学びながら、「食べられるようになった」「食べたら意外においしかった」「好きなものが増えた」といった前向きな気持ちが少しでも形成されると良いと考える。今後も学校の実態に応じた活動を児童と一緒に取り組んでいきたい。</p>

(作成者名 田中 菜月 校務分掌等 養護教諭・給食主任)

(様式1 計画書)

令和7年度 食育推進一校一実践 実施計画書

学 校 名	山中湖村立山中湖中学校	校 長 名	飯島 裕明
-------	-------------	-------	-------

児童生徒の課題

本校は給食を楽しみにしている生徒が多いが、給食で提供される食材や料理の中には家庭であまり使用されない食材や調理法のものもあり、生徒が抵抗を感じて食べ残してしまう傾向がある。特に、野菜・魚・豆・郷土料理などは食べ慣れていないことが残食の要因の一つと考えられる。家庭での食体験が食習慣の形成に影響しており、学校と家庭が連携して食経験を広げる必要がある。

実 践 名	つながる食卓プロジェクト ～家庭と学校で育む食育～
目 標	学校ホームページを活用した給食や食に関する情報の発信を通して、家庭での食への関心や食育意識を高め、学校と家庭が連携して食育に取り組む環境を作る。
目標指標と数値	【活動指標】 ・学校ホームページに給食・食育に関する情報を月4回以上（週1回）掲載 【成果指標】 ・生徒アンケートで「食に関心がある」と答えた割合 78.2 %→85% ・保護者アンケートで「学校の食育発信に関心がある」と答えた割合 82.5%→87.5%
実施予定日 ・実施予定期間	令和7年7月～1月
対 象	全校生徒とその保護者
指導場面	給食時間、各家庭
指 導 者	学級担任、給食主任、栄養教諭
具 体 的 な 内 容	
○事前アンケートの実施（6月実施） Google フォームを使用し、生徒および保護者を対象に、給食や食に関する関心度、情報発信に対する希望内容などを把握するアンケートを実施する。 ○生徒への働きかけ 給食の放送・掲示資料・給食時間における食に関する指導を通して食への関心を高める。 ○学校ホームページでの情報発信 学校ホームページ内に「給食室より」というページを新設し、給食写真や献立紹介を定期的に掲載する。あわせて、保護者アンケートで希望の多かった情報（レシピ・栄養の豆知識・食材紹介など）を発信する。 ○生徒と保護者の関心の変化を把握 取り組みの前後で、生徒・保護者を対象に再度アンケートを実施し、給食や食育への関心の変化を把握する。その結果をもとに今後の取り組みの改善や継続の指標とする。	
評価方法	・アンケートによる数値の変容

(作成者名 中野亜美 校務分掌等 栄養教諭)

令和7年度 食育推進一校一実践 実施報告書

学 校 名	山中湖村立山中湖中学校	校 長 名	飯島 裕明
-------	-------------	-------	-------

実 践 名	つながる食卓プロジェクト ～家庭と学校で育む食育～
目 標	学校ホームページを活用した給食や食に関する情報の発信を通して、家庭での食への関心や食育意識を高め、学校と家庭が連携して食育に取り組む環境を作る。
目標指標・数値	【活動指標】 ・学校ホームページに給食・食育に関する情報を月4回以上（週1回）掲載 【成果指標】 ・生徒アンケートで「食に関心がある」と答えた割合 78.2 %→85% ・保護者アンケートで「学校の食育発信に関心がある」と答えた割合 82.5%→87.5%
実践後の数値	【活動指標】 ・学校ホームページに給食・食育に関する情報を月12回以上（週3回）継続して掲載できた。 【成果指標】 ・生徒アンケートで「食に関心がある」と答えた割合 84.7%(+6.5%) ・保護者アンケートで「学校の食育発信に関心がある」と答えた割合 87.5% (+5%)
実施日・実施期間	令和7年7月～令和8年1月
対 象	全校生徒とその保護者
指導場面	給食時間、各家庭
指 導 者	学級担任、給食主任、栄養教諭

具 体 的 な 内 容

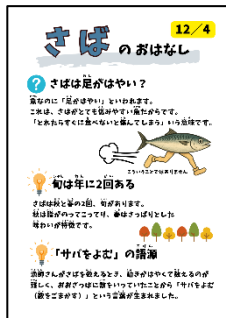
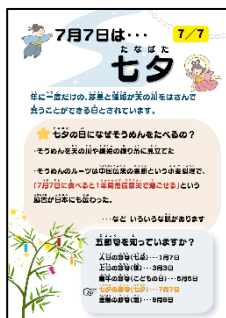
○事前アンケートの実施

6月にGoogleフォームを活用し、生徒および保護者を対象に給食や食に関する関心度、ならびに学校からの食育情報発信に対する関心や希望内容についてのアンケートを実施した。

その結果、生徒には食べ慣れていない食材や料理への抵抗感が見られ、保護者からは給食の様子や献立内容、家庭での参考になる情報を知りたいという意見が寄せられた。

○生徒への働きかけ

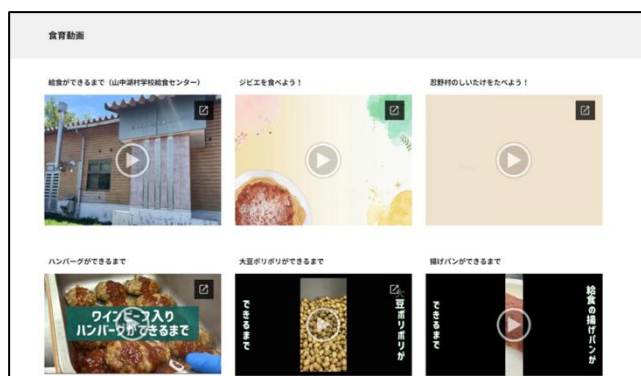
給食時間において、給食の放送や毎日の掲示資料を活用し、献立や食材、栄養、行事食などについての情報提供を行った。



生徒が日常的に通る場所に「食育掲示板」を設置し、その日の給食に関する資料を毎日掲示した。

○学校ホームページでの情報発信

学校ホームページ内に「給食室より」のページを新設し、給食の写真や献立紹介を中心に、月 12 回以上の定期的な情報発信を行った。発信内容については、事前アンケートで保護者から希望の多かったレシピ紹介、栄養の豆知識、食材や料理の紹介などを取り入れ、家庭での食への関心が高まるよう工夫した。



給食中に視聴した食育動画を家庭でも見られるようにしている



保護者から要望のあったレシピを中心に掲載

○生徒と保護者の関心と変化の把握

1月に、取り組みによる生徒および保護者の関心の変化を把握するため、アンケートを実施した。

その結果、生徒の「食に関心がある」と回答した割合は 84.7% となり、目標としていた 85% にはわずかに届かなかったものの、給食や食に対する関心の高さが維持・向上していることがうかがえた。

また、保護者の「学校の食育発信に関心がある」と回答した割合は 87.5% となり、設定した目標値を達成する結果となった。さらに、学校ホームページでの情報発信をきっかけに、「家庭で子どもと給食について話す機会が増えた」と回答した家庭は 30.1% にのぼり、今後も給食や食育に関する情報発信の継続を望む家庭は 80.1% であった。

<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> 給食の放送や掲示、給食時間における働きかけを通して、給食や食に対する関心が高まり、献立や食材に目を向ける生徒が増えた。 家庭で食べ慣れていない食材や料理についても、給食での説明や紹介により、食への理解が深まり、前向きに給食に向き合う姿が見られた。 学校ホームページでの給食・食育情報の発信をきっかけに、家庭で子どもと給食について話す機会が生まれ、学校での取り組みが家庭に広がった。 給食の様子や献立、食に関する情報を知ることによって、学校の食育に対する関心が高まり、今後も情報発信の継続を望む声が多く寄せられた。
<p>今後の課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> 給食で初めて出会う食材や料理に対する抵抗感を軽減するため、献立紹介や食材説明の方法をさらに工夫していくことが求められる。 学校ホームページでの情報発信について、十分に確認できていない家庭もあることから、更新の周知方法や閲覧しやすい工夫が必要である。 情報発信が一方方向にならないよう、保護者や生徒からの意見や感想を取り入れる仕組みを検討する必要がある。 家庭での実践につながりやすい内容（簡単なレシピ、声かけの例など）を充実させるとともに、内容や方法を見直しながら、継続的でより効果的な情報発信や指導のあり方を工夫していく必要がある。